

社会福祉法人麦 平成30年度法人本部事業総括

1、基本理念

2018年3月22日の理事会、評議員会で確定し機関紙等で周知しました。また、職員に対しては、タイムカードの所に1年間掲示し周知しました。

「夢はでっかく、歩みは一步步」

どんなに重い障害があっても、一人の人間として生き生きと活動できる場所を目指します。「育ち合い、支え合いを大切にしたい、真に人間らしい営み」をめざして、彼らを取り巻く家族、そして職員たちが一緒になって、地域の人たちの理解を得ながら、ゆっくりと活動を展開していきましょう。

沿革

1993年「どんなに重い障害があっても地域で生活したい」という思いのもと、麦の里の活動は始まりました。

既存の施設からも断られるような、重い知的障害者や重複障害者を受け入れながら活動を続けています。障害を持ちながら前向きに頑張っている人たちを、共に生き、共に成長する「仲間」として、排除せず、彼らと共に麦の里は成長してきました。

1991年 4月 民家で活動開始

1993年 3月 障害者とともに歩む麦の会設立

1994年 5月 旧上品野小学校で作業開始

1995年11月 共同作業所麦の里開所

2003年 7月 社会福祉法人麦設立

2004年 9月 身体障害者授産施設・通所療護施設「麦の里」開所

2009年 2月 グループホーム建設予定地取得

2011年12月 生活介護・就労継続支援B型多機能事業所へ移行

2013年 2月 グループホーム用中古住宅取得（品野町1丁目・第2ホーム）

2015年 4月 グループホーム「七色の麦」開所

2、運営方針

2018年3月22日の理事会、評議員会で確定し機関紙等で周知しました。また、職員に対しては、タイムカードの所に1年間掲示し周知しました。

- 1) 私たちは社会的使命と社会的責任を認識し健全な事業運営を行います。
- 2) 私たちは公正公平を原則とし、「相談」と「話し合い」を基本に、民主的な事業運営を展開します。

- 3) 私たちは、様々な障害を抱えた利用者を、「共に、同じ地域社会の中で生活していく人間」あるいは「共に、仕事を分かち合いながら働く人間」として認め、その存在を「自分と等しく社会の一員である」と認めて接していくために「なかま」と呼びます。
- 4) 私たちはなかまの安全と安心を守るとともに、障害者の自立支援となかま本位の精神を尊重し、誠実な施設運営を展開します。
- 5) 私たちは、なかまはもちろんのこと、職員その他すべての関係者の人権を尊重します。
そして、発達保障の立場に立ち、一人ひとりの「主体性」を尊重しながら、地域福祉の健全な発展に貢献します。
- 6) 情報マネジメントを基本にして、運営面のすべてにおいて情報公開を原則とした透明性のある事業運営を行います。

3、法人運営

1) 理事会・評議員会

理事会 平成 30 年 5 月 31 日 理事 6 名出席 監事 2 名出席

29 年度事業報告案

29 年度決算案

監事監査報告

30 年度第一次補正予算案

品野 1 丁目ホーム リフォームについて

調停申立てについて

理事長業務報告

評議員会への議題について

評議員会平成 30 年 6 月 21 日 評議員 5 名出席 理事 3 名出席 監事 2 名出席

30 年度第一次補正予算案

29 年度事業報告

29 年度決算

監事監査報告

理事会 平成 30 年 9 月 18 日 理事 4 名出席 監事 2 名出席

青色の麦設計士の解任について

青色の麦新設計士の選任について

青色の麦リフォーム予算の修正

及び第 2 次補正予算案

理事会 平成 30 年 11 月 15 日 理事 5 名出席 監事 2 名出席
30 年度予算執行状況
30 年度第 3 次補正予算案
品野 1 丁目ホーム（青色の麦）改修事業者等に
ついて
土地購入の件
麦の里空調改修計画について
職員採用等の状況について
理事長業務報告
評議員会への議題について

評議員会 平成 30 年 11 月 15 日 評議員 4 名出席
30 年度予算執行状況
30 年度第 3 次補正予算案
品野 1 丁目ホーム（青色の麦）改修事業者等に
ついて
その他（理事会での審議状況報告）

理事会 平成 31 年 3 月 28 日
評議員会 平成 31 年 3 月 28 日

4、事業計画

1) 短期計画（1 年～2 年）

1、麦の里の就労継続支援 B 型事業を廃止し、生活介護単独事業所とする予定でしたが、正職員の退職、休職などがあり、移行後に現行の体制基準を満たすことができず、大幅に収入減となることから今年度は断念しました。

今回断念する他の要因としては、

①前年度の利用者数が多かった。→基準人員の押し上げ要因

②就労継続支援 B 型の実利用人員で計算するのではなく、定員数 10 人の 9 割利用で計算するため、基準人員を常勤換算で 2 名押し上げることになる。

今年度の利用者数は、大幅に減っている所以で新年度に移行をしたい。

2、新たな事業用地を購入し（29 年 11 月理事会承認事項）、将来的な事業展開に備える予定でしたが、境界画定ができないまま購入を打診してきた為、お断りする事になりました。引き続き物件を探します。

3、品野 1 丁目グループホーム（青色の麦）30 年中開所を目指しましたが、設計段

階でトラブルがあり今年度中の開所を断念しました。また、正職員の採用が進まない一方で常勤・非常勤パートを5名採用し、人員基準としては開所の目途が立っています。引き続き正職員採用を進め万全な体制としていきます。なお、リフォームの完成が4月中旬予定で、県への事前審査も通っていますので新年度初旬の開所予定となります。

4、麦の里・七色の麦防災備蓄（食糧、非常電源設備、コンロ、電灯、電池など）整備しました。

他の防災グッズについては、新年度以降に瀬戸市と協議し、整備を進めます。

5、事業用車両（レジアス）を更新しました。

印刷機を更新しました。

6、マッサージ機を更新しました。

炭焼き釜、濾過設備は、清水基金の補助が決定し、5月に納入されることになりました。

7、電気、ガス料金を低減するため高電圧への切り替えを行いました。

新年度に麦の里の空調機設備をガスから電気に更新する予定です。

2) 中期計画（3年～5年）は、若干の見直しが必要です。

1、平成33年までに第2麦の里の開所を目指すこととしていますが、青色の麦リフォーム費用が予定外に高額となったため、予定より大幅に遅れることとなります。

2、平成34年までに麦の里全館LED化を図ることとしていますが、空調機の更新を先に進めることとしました。CO2削減補助金の活用ができれば、前倒ししての実施もあり得ます。

3、麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施は、中央設計と相談しながら引き続き検討していきます。

3) 長期計画（5年以上）の変更はありませんでした。

グループホーム事業の拡充

生活介護事業の拡充

麦の里大規模改修の本格実施

5、地域公益活動

福祉有償運送事業は、利用希望者がなく実施しませんでした。

麦の里仲間の給食費軽減措置の継続（材料費代1食270円のところ230円に軽減）は引き続き実施しました。

例年通り草むしりや行事に参加し近隣住民との交流、地域行事へ貢献しました。七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献の実施（講演会等）できませんでした。

6、人材育成及び確保

強度行動障害支援従事者研修（基礎・実践）研修は、パート職員も受講しました。また、社会福祉協議会主催の研修にも参加しました。書籍配布研修を実施し、アンケートを集約し今後の実施内容を検討する事としています。

事業拡大のため前倒しで職員採用を進めましたが、常勤・非常勤パートの採用が進む一方、正職員の確保ができませんでした。。

★2018年度 麦の里 事業総括 ★

【I】全体 18年度方針

1. 昼間施設とホームとの兼務体制を拡充し、安定した施設運営を目指す。
2. 正職員を早急に2名、さらに2名、合計4名を年度内に増やしたい。
3. 未来を準備するための職員研修を積極的に行っていく。
- 4.

I 全体のまとめ

○2018年度は、仲間が1名退所となり、37名在籍しています。

○スタッフ体制は「麦の里」の職員が兼務で「七色の麦」に従事しています。そのような中でも正職員1名が「七色の麦専属」に近い形を取っています。また、全員ではありませんが日勤・夜勤・遅番・早番の勤務形態でシフトを組んでいます。

○今年度は、夏に女性正職員が1名退職しました。それでも夜勤には1名の看護師が入ることとなり、女性正職員の負担軽減につながりました。しかし、一方で日中に看護師がいない日ができてしまいました。看護師の確保、または第3号研修を受けた職員が医療的ケアができるように整備する必要があります。

また、年度後半にはパン作業の正職員が産休に入りました。そのことに伴い、新たにパン担当の正職員を入れて作業の継続・パンの販売を継続しています。

○4月から正職員が1名入職しました。パート職員は女性1名が年度前半に入職。後半には女性が2名、男性が1名入職しました。また、病気で長期療養していた正職員がパート職員として復帰しました。

○青色の麦については、設計士さんが交代することもありましたが、12月に着工し、年度内に完成となりました。また、年度後半には利用予定者の保護者の方と面談をし、利用者を決定しました。

○グループホーム七色の麦では、体験利用を引き続き実施しています。急な宿泊対応もできる限り受入れています。また、夜勤に1名、看護師が入ることができたので医療的ケアの必要な仲間の対応も安心してできています。

○Bグループにおいては作業項目を3種目にできる日も多くなり、少人数のいグループを形成することができた。仲間たちものびのびと作業でき、職員も1人1人を細やかに見ることができています。

Ⅱ、Ⅲ 1日の日課とグループ別まとめ 18年度方針

1. Aグループは仕事を中心に取り組むが、レクにも取り組んでいく
2. Bグループは仕事に取り組む中で、仲間の自我の発達に取り組む
3. Rグループは、日々の業務を安定させる中で、計画的に取り組むを作っていく
4. 作業以外の生活面への配慮の必要な仲間もでてきており、取り組んでいく

Ⅱ 仲間たちの取組と活動スタイル

1. 1日の日課と活動スタイル

麦の里の1日は朝の会から始まります。朝の会では本日の健康状態、作業確認、連絡事項の確認をしています。それぞれAグループ、Bグループ、療護グループに分かれて行います。

Aグループでは、朝の会前はラジオ体操をするのが日課となっていて、週初めには一週間の予定確認をしています。七麦に泊まる仲間も増えた事から、七麦の事も含め話合っています。Bグループでは、作業を選ぶ際に写真や文字盤を使用する仲間、口頭で選ぶ仲間も居て、それぞれが自分の意思で作業を決めています。また、今年からは、新たに仲間それぞれが話したい事を一つに絞り、朝の会が時間内に終わるよう取り組んでいます。Rグループでは、健康状態のチェックを中心に水分補給をしながら朝の会をすすめています。

お昼の休憩時間もBグループやRグループはゆったり時間をとっているのに対し、Aグループでは1時ちょうどから仕事を始めます。

帰りの会は唯一の全員一緒の会になります。まとまりを持った会にすることは難しいのですが、それでも全員に対する連絡事項や、話し合いの大事な時間になっています。

2. 個別の取り組み

今年度もAグループ、Bグループ、療護グループに分かれての作業、療護活動と集団活動に取り組んでいきました。

その中で仲間一人一人の取り組みについて考えてきました。1対1の対応が必要な仲間は3名で昨年度同様に1対1で対応しています。慣れた職員が対応することで仲間たちの状態も安定しています。また、通院の補助をするなどの対応もしてきました。

P.Tの先生と相談し、仲間たちの補装具・車いすの修理や新規作成もしていきました。

Ⅲ グループ別 活動のまとめ

◎ Aグループ ◎

1. 全体として

今年度は、1名の仲間がBグループの朝の会から参加することになりました。もともとBグループの作業に入っていた仲間なのでこのことがグループ内で大きな混乱にはなりませんでした。

Aグループの中心には作業があります。忙しい中でも仲間たちは作業を通じて達成感を感じています。一方で仲間同士の関係づくり、Aグループとしての仲間意識を育むという面において仲間の会は重要だと捉えています。今年度は、仲間の会を定期的とは言えませんでした。が昨年度より多く開くことができました。回数を重ねて仲間たちがより主体的に取り組めるようにしていきたいと考えています。

2. 作業活動について

今年度もかね三や愛新陶器の内職作業と並行してパン作業・炭作業に取り組んできました。内職作業は継続してきたことで仲間たちも精度をあげています。

パン作業においては担当職員が年度後半に長期休暇に入りましたが、新たな担当職員が入り、仲間たちも今までパン作業で積み重ねてきたことで自信を持って取り組んでいます。炭作業においても年度後半に病欠だった担当職員が復帰しました。

3. その他の活動について

Aグループでは、作業活動以外に余暇活動としてレクリエーションを行いました。仲間の会を開いて希望を聞き、実際に活動しました。この活動も回数を重ねてきたことで仲間たちは、仲間たちが主体となり企画していききました。このように取り組めたことで更なる自信となりました。

仲間の会を定期的とまではいきませんでした。が、昨年度より回数が多くなり、「話し合う」ことが当たり前になってきた印象です。仲間たちの中でもより仲間意識が出てきたように感じています。

◎ Bグループ ◎

1. 全体として

今年度もなるべく作業種目を2種目から3種目にして作業活動に取り組んできました。

今年度は、1名の仲間がBグループの朝の会から参加することになりました。今まで、作業のみBグループでの参加でしたが、ご本人の中でも朝の会からの参加になったことでBグループでの仲間意識も育ってきています。

Bグループでは会話を大切にしています。外作業の車中の中などで仲間同士や職員との会話を大切にしていることで仲間たちの言葉数が増えてきている印象です。また、仲間たち自身の人間関係の幅が広がってきているように感じています。

仲間の会はレクリエーションの話が主でした。仲間の会は、仲間たちの仲間意識を育む上で重要になっています。

2. 作業活動について

今年度もなるべく作業種目を2種目から3種目にして作業活動に取り組んできました。種目を増やしたことで少人数のグループとなり、仲間たちも作業の中で達成感を持ちやすくなりました。

Bグループの作業活動では、作業を通じて仲間たち同士のコミュニケーション・他者を意識するということを大切にしています。仲間たちは廃品回収で重くて大きいものでもペアになって持ったり、袋詰め作業でシーラーをしてそれを検品する仲間に渡したりと作業を通じて仲間意識を育くまれているように感じています。

3. その他の活動について

今年度も作業活動以外にレクリエーションを1回行いました。仲間の会で希望を取り、少人数のグループでレクリエーションを行いました。仲間たちの作業以外で見れる姿や表情は新鮮に感じました。レクリエーション以外でも今年度は成人者がおらず成人式ありませんでしたのでお楽しみ会を行いました。Bグループの仲間たちは「クッキー作り」に挑戦しました。どの仲間も表情よく楽しいクッキー作りとなりました。

仲間の会はレクリエーションの話し合いが中心でした。回数を増やしていきたいと考えています。

◎ 療護グループ ◎

1. 全体として

今年度は、女性の正職員が1名退職したため男性2名、女性2名のローテーションで療護に入る体制をとりました。また、昨年度入浴日のある火曜日・金曜日は作業中心のパート職員に療護に入ってもらい週2回の入浴を保証してきました。

年度中盤に療護の仲間の女性が1名退所となりました。

看護師の体制も2名体制を維持してきてましたが、看護師が1名、夜勤に入りました。これにより1名が夜勤のときにもう1名の看護師が休みになることもあり、看護師が不在のときがありました。導尿が必要な仲間には母に来てもらうこともありました。3号研修を受けた職員もいますので今後、体制を整えていきます。

2. 入浴について

今年度も男性は月・木曜日、女性は火・金曜日に週2回の入浴を行ってきました。入浴は汚れを落とす以外にも身体全体を温めること、筋緊張の強い仲間や身体の固い仲間にはそれを少しでもほぐしてリラックスできるときとして重宝しています。また、職員としても仲間の全身を見れて触れ合えてととても近い距離で接する貴重な機会となっています。

3. その他の取り組みについて

今年度も療護の活動の中心は入浴でしたが、その他の取り組みとして「絵本の読み聞かせ」「音楽」「足浴」「お散歩」は定着しました。それぞれ表情の変化があり、仲間たちにとって刺激となっています。また、図書館まで絵本を借りにもいきました。普段、

外に出る機会の少ない仲間たちにとって貴重な機会となっています。

今年度もPTの先生に月に2回来てくださり、仲間たちの身体の状態・姿勢についてアドバイスを頂いています。仲間たちにとって良い活動となっています。

このように良い取り組みをしていますが、今後としては継続的に取り組めるように前もって計画することが課題となっています。

4. 医療的ケアについて

今年度は、医療的ケアの必要な仲間が5名でしたが、年度中盤に1名退所となりましたので年度後半は4名在籍しています。看護師は2名体制でしたが、年度後半には1名が夜勤となり、火・水曜日は1名ということになり、看護師がいない日ができるしまうこともありました。そのような中で昨年度に2号・3号研修を受けた職員がいます。この職員ができるように体制を整えることが課題となっています。

IV 作業別総括

別紙

V 行事・その他の活動について

1. 全体として（物資・イエローレシート・募金活動についてはここで記載）

今年度は、「もちつき大会」の他に成人者がいなかったため「お楽しみ会」を行いました。瀬戸ライオンズクラブさんよりお誘い頂き、春日井市で行われる「いい汗流そう大会」に参加しました。また、それ以外にクッキー作りも「お楽しみ会」の1つとして取り組みました。

例会活動と合わせて、バザーにも参加し、募金活動にも同様に参加しました。例会と合わせることで行きたい仲間はバザー・募金に参加しました。また、イエローレシートキャンペーンには2回参加しました。

毎年恒例となっていて仲間たちの楽しみの1つとなっています。地域とのつながりや麦の里を知って頂く機会としても継続していきたいと思っています。

物資に関しては、例年同様、注文書の配布・回収・集計・仕分け・配達と仲間たちで取り組みました。配達作業は仲間たちもとても楽しみにしている活動です。集計担当の仲間も張り切って取り組んでくれています。今後も取り組んでいきたい活動となっています。

2. 仲間たちの行事・活動

①餅つき大会

今年度ももち米の寄付を頂くことができ「もちつき大会」を開催することができました。昨年度に引き続き、Aグループは1Fホール、Bグループは食堂、療護は療護の部屋というようにそれぞれ分かれて行いました。昨年度はお餅をちぎる人がいないということが反省としてあったので今年度は、母組に協力して頂いました。ちぎる人がいたことでスムーズとなり、仲間たちもゆっくりお餅を堪能できたように感じます。

一方で焼きもちを作るタイミングが早くなってしまい、食べるころには固くなってしまったということがありました。反省点として次回につなげていきたいと思っています。

②お楽しみ会

・いい汗流そう大会

瀬戸ライオンズクラブさんよりお誘いを頂き、「いい汗流そう大会」に参加しました。6種目の障害者スポーツに取り組みました。様々なゲームに取り組み、仲間たちもとても楽しめました。

この日は、1日活動日として午後は会場近くの落合公園を散歩するグループと麦の里で仕事をするグループに分かれました。仲間たちは充実した1日を過ごせたように感じます。

・クッキー作り

今年度は新成人がいなかったため、A組はライオンズクラブさんに誘われた「いい汗流そう大会」へ。B組と療護のグループ、A組の希望者は麦の里にてクッキー作りをしています。

型抜きクッキーとスノーボールクッキーを作る事にしました。午前中は生地作り、午後は成形をしました。A組の仲間は自分で生地を練り、好きな形に型抜きを中心に。B組の仲間は盲障害の仲間たちも生地の手触りを楽しむようにしたいと思い、スノーボールを中心に。療護の仲間たちは手に卵液を塗ってクッキーの生地にお絵かきや手形を付ける手形クッキーを中心に取り組みました。

空き時間ができてしまい、仲間を待たせてしまう時間が出来てしまったことが反省点として挙げられますが、クッキーという素材がどの障害の方でも、わりと楽しめるという素材なため、全ての人が関わることが良かったです。

③各種バザー

今年度も毎年参加させて頂いているバザー、定期的開催される「ふれあい朝市」「やすらぎ木曜市」「せと福祉マルシェ」に参加させて頂きました。

ふれあい朝市は、日曜日の開催でした。今年度は職員を出せないときもあり、参加回数が昨年度に比べ減りました。また、毎年参加させて頂いているバザーにおいても台風の影響があり、中止となったバザーもありました。売り上げとしても参加できなかったことから昨年度より少なくなりました。

一方で仲間たちにとっては、例会活動として参加したバザーもあり楽しみな活動と言えます。また、やすらぎ木曜市のように販売活動を定期的に行えるというのは良い活動だと感じています。今後も大切にしていきたい活動となっています。

④例会・役員会活動

毎月第1土曜日を麦の会の定例会をし、仲間たちは麦の里で活動しています。普段の作業活動・療育活動と違って仲間たちに選んでもらい活動しています。「作業・散歩・映画」が定番となっています。それぞれ仲間たちが選ぶのでA・B・療護の仲間たちが一緒になって活動する貴重な機会となっています。

麦の会の定例会には、施設長・副施設長に現場職員が1名参加するようにしています。現場職員の参加は保護者の方々との意見交流という意味でも良い機会となっています。

役員会活動では、少人数の取り組みなので1人1人の様子を細やかに見る事ができています。

V 施設運営について

1. 全体として

この1年間を「運営面」から振り返ると、

- ①青色の麦(第2ホーム)のリフォーム
- ②新しい職員の求人対策
- ③利用者1名の退所と新卒(予定者)の受け入れ準備
- ④建設15年目を控えた「麦の里」の設備修理と改善対策

以上の4点が、今年度の運営を進める中では大きな課題としてありました。

『青色の麦』のリフォームについては、当初からお願いしていた設計士との話し合いが思うように進まず、夏頃まで悩み続ける日々が続きました。けれども、秋にはなんとか着工の目処が立ち、2019年5月には完成の見込みです。

2004年度9月に新築で開設した「麦の里」は、2019年8月で丸15年となります。その為、様々な設備についてトラブルも増えており、今年度も修繕やメンテナンスに費用が掛かりました。そんな中で開設当初から使用している『ガスエアコン』について、『電気エアコン』に取り替える為の準備を始めています。まとまった費用が掛かる為、理事長中心に3年程前から検討・準備を進めていますが、2018年度には心臓部となる『高圧電力』の引込み準備を完了させることができました。2019年度の夏には、すべてのエアコンを新しい『電気エアコン』に交換出来ることとなります。

新しいホームと第2麦の里を目指しての職員募集については、かなり時間を費やしましたが、依然として「人手不足」の解消には至りません。

それでも今年度も多くの新人職員を迎えました。4月1日から現場の正職員が1名入職。事務職パート1名増員、その後パート職員4名が新たに加わっています。女性正職員1名退職という大きな打撃も、夜勤や遅番をまかなってくださるパート職員が加わったことで、なんと切り抜けることができ、ホームとの兼務体制も安定させることができました。

2. 利用者数について

2018年度は、生活介護31名、就労継続支援B型7名、合計38名でスタートしました。1名退所者が出ましたが、年度末には新卒の仲間を1名迎えた為新年度も同人数です。

8月に親御さんとの衝突から1名の仲間が退所されました。10年以上麦の里を利用されてきた最重度の仲間。7年程前に母親が急逝した後、仕事をしながら父親1人で家庭で介護しながら生活が続けて来られた家族でした。医療的ケアが必要で他施設での受け入れの難しいことから、早朝から夜間までの超延長対応を6年以上にわたって続けてきました。日常のケアに関して、父親との信頼関係がうまくいかなくなり退所となりました。「医療的ケア」の必要な仲間たちを支える女性正職員が、最前線で奮闘しましたが継続困難となりました。現場の職員だけでなく、相談支援センターや福祉課職員に相談して、麦の里以外での支援も模索してみましたが、現在は父親と在宅生活になってい

ます。

この退所についての総括と次への課題については、現場職員にとってはかなり厳しい試練であり、結果としては辛い出来事になりました。そのため、現場職員全体では総括するに至っていません。そのため、「あいされん重度重複部会」のケース検討会へのレポート提出という形で、直接関わった職員にまとめてもらう形で、整理しています。

施設の抱える課題は、仲間たちの問題だけではないこと、いろいろな立場の人たちで支え合って進めていかなければならないこと、を改めて認識させられました。

一方、2018新年度3月卒業予定の仲間たちについて、2018年度に合計5名の実習生を受け入れて進路相談を行ってきました。

最終的には1名が利用契約を結んでいます。初めて東濃特別支援学校からの卒業生を受け入れました。岐阜県瑞浪市の方で、近隣に重度障害者の施設が少なく、春日井コロニーへ通院している事から麦の里の利用となりました。

瀬戸市特別支援学校からも、外国人家庭の重度重複の方が1名希望されていましたが、ご家族の都合で土壇場でキャンセル。今後はこうしたケースが増えていくことも予想されます。

3. 職員体制について

4月に男性1名の新人正職員を迎え、正職員15名でスタートしました。

8月に女性正職員が1名退職。1月には1名が妊娠中の体調不安からお休み、そのまま産休に入った為、年度末には実質13名で稼働しています。

ベテラン女性正職員の退職という大変さはありませんでしたが、新しい正職員の定着と、看護師の夜勤兼務開始でカバーしてもらい、年度後半には夜勤・遅番が可能なパート職員の入職により、最終的に兼務での七色の麦の夜勤体制も安定しました。

年度後半に迎え入れたパート職員5名を積極的にホームとの兼務職員に登用することにより、青麦ホームの体制を何とかまかなう予定にしていますが、実際には新年度の課題になります。

4. 事務部門について

2018年の3月、4月に1名ずつパートの事務職が登場。事務体制が格段に安定しました。事務作業の要となる「給付費の請求業務」と「会計業務」の2本柱について、日常的な実務を事務職が分担して行えるようになりました。年度後半には、間違いもほとんど無くなり、管理職の事務負担が大幅に軽減されました。

これまで「事務職員1名」ということで、相談しにくかった分担が「2名」になることで話しやすくなり雰囲気も変わりました。そして雑用に追われがちな事務部門の、重要な流れについて、整理が進んだ1年でした。

5. 会計部門

こちらも、会計ソフトの入力経験のある事務職員の増員により、日常的な会計事務が格段に進み、管理職の事務負担が大きく軽減されました。

ただ、一般企業の会計経験者であるため、「社会福祉法人会計」という特殊な事業会

計との違いも大きく、管理職と会計事務職員とで細部の調整まではうまくいかず、課題となっています。

6. 法人役員の活動について

理事会を4回、評議員会を3回開きました。滞りなく議事も進行しています。監事監査も重大な指摘はなく終わっています。

前理事長の夫から、法人としては全く身に覚えのない訴えがありましたが、家裁の調停を受け、無事終了しています。

7. グループホーム作りについて

品野1丁目のリフォームを巡り、当初から関わって頂いていた設計士さんと何度も話し合いを持ちましたが調整が難航、やむなく設計士を変更しました。麦の里や七色の麦でもお世話になった中央設計に相談にのってもらい、年度後半に一気に計画が進みました。ただ、結果としては、当初の予定よりも遙かに建設費がかさみ、急遽、寄付を募ることになりました。

「リフォームは難しい。できればもうやりたくない。」

「建築家の方と信頼関係を築くためには、『(社会福祉法人は)資金が少ない』ということとを理解し合えることが、絶対に必要不可欠」
この2点をしっかり勉強させてもらえた、貴重な建設体験でした。

8. 第2麦の里つくりについて

「青色の麦」の目処がたったことから、第2麦の里の候補用地を何件かあたりました。一カ所は、隣地との境界線が確定されておらず、後々問題となるおそれがあることから断念し、あとの土地も、北側斜面であったりしたことなどから、購入に至りませんでした。新年度には、土地購入を実現したいと考えています。

そして、マンパワーの充実も、大きな課題です。新しいプロジェクトを立てることで、若手職員が夢を育てることができる。そんな第2施設作りが望まれます。

2018年度 作業別3行総括

◎内職作業◎

○カネ三

毎年恒例の季節物に加え、新商品が、多い年でした。いくつもの工程を、仲間たちの得意分野ごとに分担。多忙な時期は、沢山の商品が重なってくる為、入れ間違いのないように、仲間も職員も細心の注意をして、作業に取り組みました。また、補助道具を使うことによって、出来る事が広がった仲間もいました。仲間の手先を見ながら、多種多様な商品に対応していけるよう、対応していこうと思います。(みどり)

○赤羽コンクリート

単発の内職作業。コンクリート製品を、ユニックで吊り上げる時に使うボルトの組み立て。ボルト・ゴム・ワッシャーをうの金具に、はめる作業。はめていく順番や方向が、仲間には分かりにくく、初めのうちは苦勞していましたが、回数を重ねるごとに、間違える事なく入れられるようになりました。慣れてきた頃に、予定数の1000個が完成。次の予定は、2年後とのことです。(みどり)

○アイシンA

今年度もジェルの廃棄や分別、芳香剤等の検品のお仕事をたくさんいただきました。ジェルの電池取りなどの定期的にいただける慣れた作業もできてきました。納期が決まっている商品もあり、芳香剤のチェックでは、汚れやシールのずれ等の細かな検品をする箇所が多く、工程が難しい物もありました。納期も決められている仕事の中で、それでも仲間たちはそれぞれに得意な工程に分かれて、果敢に取り組んでくれています。(岩切)

○アイシンB

今年度も定期的にアイシンのジェル出し、ソケット外しに取り組みました。B組全員が取り組むことができる仕事で、A組が箱出しをして電池抜きをしてくれたものを、B組に回してくれます。仲間たちも、普段なかなか触ることのないプルプルとした感触のジェルに触れることができ、その感触やにおいも楽しみながら、道具や手指を器用に使いジェルをかきだしています。

また、トンカチを持ってソケットを外すという仕事も、力加減の難しさはあるものの、取れたときの達成感があるようで、そちらの仕事もみんな張り切って臨んでくれています。また、普段さわることのない「トンカチ」といった工具が使える機会でもあります。今年度は液体出しはありませんでした。

今年度はB組の中仕事が少ない中でいただけたのでありがたかったです。(大下)

◎自主製品◎

○パン工房

パン工房で働く仲間は年々、パンの成形や具材作り、クッキーやケーキ作りなど上達してきています。仕事に対する責任感をしっかりもって取り組む姿勢がみられました。

今年度より瀬戸市共同受注窓口「せとぶれんど」が本格始動し、3事業所共同で焼き菓子ギフトを販売する事になりました。そのつながりで地域の交流センター等でモーニング用のパンの注文をいただいたり、パン販売をさせてもらったりと新たな仕事が増えました。仕事が増えると仲間たちの意欲につながっているようです。

2月より産休に入る職員と交代し、別の職員が引き継ぎました。まだ慣れない為、今まで行ってきた作業の量は減りましたが、少しずつ仲間との関係を築いていき、パンの販売を再び拡大していきたいと思います。(三好・小林)

○パン集計

例年同様、パン集計は3名の仲間で行いました。集計・PC入力・集金袋の準備など、それぞれの担当分野を、慣れた様子で取り組んでいます。ミスがあった時は、その都度仲間たちで話し合いました。チェックの回数を増し、1つ1つの項目を丁寧に見直すという

事で、再発防止に努めています。また、定期で大口の注文が入る事になり、今までにない作業工程が増えました。それにより、さらに仲間のやる気に繋がりました。

(みどり)

○カード・楊枝入れ

今年度も内職の合間をぬって作業に取り組みました。ストックも整えることができたと同時に「工程を忘れない」ようにしてきました。

6月に小牧特別支援学校に「カード入れ製作の実演と体験」をしました。当日までに作業をなるべく入れて、仲間・職員ともに当日に向けて練習を重ねました。仲間・職員ともにとても良い経験となりました。

来年度も、内職の合間をぬいつつ「工程を忘れない」ように継続して取り組んでいきたいです。

(村松)

○炭作業

年度前半は、内職作業とのかね合いの中、最低限の作業活動をしてきましたが、年度後半には休職していた職員の復帰もあり作業を増やしてきています。

仲間たちは竹取り・炭焼き・加工・製品作りに取り組んでいます。今年度は、竹をたくさん頂ける機会があり竹取りも多く出掛けることができました。それに伴って、加工作業も年度前半から中盤を中心に取り組んできました。仲間たちもいきいきと取り組みました。また、年度後半には作業を増やせたことで仲間たちに製品作りを積極的に取り組んでもらっています。徐々に新商品の開発をしていきたいと考えています。

今年度は、竹酢液の大口注文も一昨年・昨年度に比べて増えました。継続していきたいと考えています。

(村松)

○EM ボカシ

年度の後半から、EM ボカシ担当が古謝・小林から、新たに古謝・坂本へととなりました。

“箱だし”ではチェックをこまめに行い、定期的に行っています。

昨年度から導入した“詰め直し（仕込み後の空気抜き）”“乾いたボカシのケース入れ”という二つの作業項目が定着しました。例年通り、ほぼ毎週火曜日の午前には“仕込み”をA組とB組で取り組み、安定した分量で仕込みが行っていますが、作業の回数を増やしていくことを検討しています。

土を耕し、ボカシを和えた生ゴミを混ぜる“生ゴミ園芸”はBグループの作業としていましたが、準備等の兼ね合いから、毎週水曜日の午後に、Aグループの仲間での取り組みとして定着しました。また土の状態が安定しないため、作業の回数を増やしました。

EM ボカシだけでなく、EM 活性液も大幅に収益をあげています。作業項目に伴い、仲間間で担当等を決めていきたいと検討しています。

(古謝・坂本)

○牛乳パック

今年度は在庫があったため、作業回数は少なかったです。それでも、10月に特注の注文がまとめて入り、その時はB組を中心に牛乳パックの詰めの作業やガムテープ巻きをしています。久しぶりの作業でしたが、みんな手元はしっかりと作業を覚えており頑張っている仕事に取り組んでいました。

(大下)

○ネコ耳

今年度も美容室 路さんからの依頼を受けてネコ耳を作りました。昨年度と同じく、700匹作ることを目標にしました。

昨年度から、招き猫祭りが終わった後の年度の後半から作業を始めることで、約1年を通した長期的な作業になり、仕上りも安定していました。作業工程が昨年度から増えましたが、しっかりと工程を覚えており、お客様のニーズに合った綺麗なネコ耳を作ることができました。また、内職との兼ね合いもある中で、A、Bグループで作業を分担しつつ、急ぎのものはAグループがフォローをして、間に合わせることができました。

ただし招き猫祭りの2日目が台風で中止となり、365個が来年度用の在庫として残っています。そのため、来年度に向けたネコ耳は作る数を減らして調整しています。裁縫が得意な仲間も多いので、祭りで同時に販売しているネコグッズの、現在はイエローエプロン

ズさんや職員で作っているところを、仲間で作ることに挑戦してみるかどうか検討課題になっています。
(柳原)

◎廃品回収◎

○アルミ缶

今年度もアルミ缶の潰し、袋入れは安定して取り組んでいます。アルミ缶回収では諸事情で缶を頂けなくなってしまったお宅もありましたが、他の廃品回収先や、保護者の方のご協力で、安定してアルミ缶を回収することが出来ました。月1回の納品もすることでもできており、各作業との進行具合や、仕事量を相談しつつ、安定して作業に取り組んでいきたいです。
(岩切)

○廃品回収

Bグループの仲間が主に取り組んでいる外作業の一つで、ほとんど毎日仕事が入っています。慣れた作業なので仲間は持ち方を工夫したり、声掛け誘導だけで作業できるようになってきています。最近では余裕もでき、お互いに励まし合う場面もみられ協力しあってくれています。Aグループの仲間も週二回順番に参加してくれ、グループ間の関係を深めています。他にもAグループによるトラック廃品、月一回 A、B合同による北山団地の廃品も行っています。地域の方々の協力もあり廃品先も増え、天候に左右され仲間にとっては大変な作業ですが、仲間に負担の少ないルート作りを心掛け取り組んでいきたいです。
(谷口)

◎その他の作業◎

○かやふきん

今年度もバザー、物資が主な売れ筋でした。やすらぎ木曜市等の定期的に行われるバザーにも積極的に持っていけました。作業ではA、Bともに折り～入れるところまで作業をしています。作業回数は去年と同じ程でした。今年度は慣れてきたのもあるのか、マンツーマンでの作業でなくても、作成をすることが出来てきてます。
(岩切)

○物資

日頃からパン集計で慣れている仲間が、今年も物資集計を担当。年に数回の作業の為、必ず工程表を確認してから、始めるようにしました。そうすることで、仲間同士で見通しをつけながら、作業を進めていく事が出来ました。新しい仲間の参加により、難行していた袋の名前書きも、スムーズにいくようになりました。配達は、B組さんが中心で。年々注文数が、減少傾向にあり、以前は、B組さんと一緒にしていた仕分け作業が、出来なくなってきました。去年同様、販路拡大は、課題の一つです。
(みどり)

○機関紙作業

今年度もAグループ、Bグループで分担して作業しています。Aグループでは3つ折りから封閉じ作業をしており、裏表紙の線を目印にして折ることで安定して折れるようになりました。Bグループでは宛名シール貼りから丁合、折り作業をしています。今年度からコピー機が新しくなったため丁合の作業がなくなりました。Bグループでやっている宛名シール貼りでは、シールを綺麗に貼ることが難しく、工夫をしていますが作業後に職員が直す事が多い。Aグループにも協力してもらおうなど対策を考えています。
(多良)

2018年度 仲間3行総括

<麦の里>

◎Aグループ

○R. Kさん

麦の里のムードメーカーで、休憩時間には他の仲間に歌を歌ったり一緒に遊んだりして、新しい職員にも、積極的にコミュニケーションを図っています。

作業面では、カネ三やパン集計を中心に主に室内での作業を中心に取り組んでいます。自分のペースで無理のない様に、前向きに頑張っています。しかし、苦手な職員との作業は、自分の持論を通そうとする事があり、誰とでも作業ができる様にしていく事が今後の課題です。

また、最近足のはりを訴えや転倒があり運動不足も気になる為、それを解消する事も考えていきたいです。
(小林)

○K. Kさん

3年目。手先がとても器用で、内職が作業の中心。陶器の紙包みや陶器の髪留めの接着作業などは、定着してきています。特にネコミミは、職員も真似出来ない程きれいに縫ってくれます。今年はネコミミの数を増やしていますが、そのほとんどをKさんが携わっています。こだわりがあり、感情の不安定さが課題の一つ。パニックは、頑張る見通しが持てるようになり、少しずつだが、落ち着いてきています。
(みどり)

○S. Kさん

パン作業が中心の仲間です。血中酸素が低い為、酸素を定期的に吸う時間を設けています。気持ちの波もありますが、体の不調を訴える事もあり、無理の無い作業を行って貰っています。それでも最近休むという事は減り、頑張ってくれました。次に行く工程も頭に入れていて、それに合わせて動いてくれています。

今年度は、パン作業の担当職員が産休に入り、いなくなってしまった不安定さはありましたが、その気持ちを頑張って乗り越えようとしてくれます。

パン作業がない日はカネ三を中心に内職作業が多く、特に作業としては大好きなハガキ入れなどを得意としています。
(小林)

○T. Sさん

今年度に入って歩行に不安定さが目立つ場面が増えてきてます・年齢からくる疲れもある中、作業や生活についても相談していかなければなりません。4月にお母様も他界され、今後はお姉さんと二人で住み慣れた場所で生活すると選択されてます。今後もその生活を支援、見守りしていきたいです。
(岩切)

○Y. Tさん

週二回、麦の里での入浴を楽しみにしています。また、朝の会前、施設長との一日の作業相談は、Aグループ担当の職員とも出来るようになってきました。日課の面では、相変わらず午前午後の仕事には30分遅れで、朝の会、帰りの会にも参加できていません。主に室内での内職作業だが、週一回の外作業では景色を眺め、気持ちの良さそうな表情を浮かべている。話せる職員を増やすことが出来れば、違った景色を味わうことができると考えています。
(古謝)

○T. Tさん

パン作業では、おもに火を使う作業を任される事が多い。今年度は、担当職員の産休があり、クリームやあんこ作りは、自分がやるという責任感を持って、取り組んでくれています。パンの休み日には、内職に参加。陶器の包み、ネコミミのピン付けが得意で、とても頼りにされています。健康面では、めまいの訴えがあり通院。投薬の増量、変更に伴い、血圧めまいともに、現在は落ち着いています。
(みどり)

○K. Nさん

今年度もマンツーマン対応を継続してます。作業でも、自信を持って取り組める作業も増えてきたように思えます。新しく届く作業には敏感に反応し、マンツーマンで検品や梱包等に参加してくれました。今後もマンツーマンの支援を継続しつつ、本人と社会がつながる、やりがいの持てる作業を提供していきたいです。
(岩切)

○H. Hさん

面倒見がよく、休み時間などは、B組さんとの会話を楽しんでいます。廃品作業は、脚の様子を見ながら暖かい時期には、積極的に参加してくれています。今年に入り、食事の量にも、注意を払ってくれるようになってきました。進行性の病気で、以前に比べ転倒する事が増えてきています。その中で、本人は職員の援助を求められるようになり、気持ちを打ち明けられるようになりました。これからは、より一層、精神面での支えになれるよう、努めていきたいです。
(みどり)

○N. MAさん

作業には意欲的に取り組んでくれています。特に炭ではベテランさんの域です。「やらなきゃいかん」と仕事には集中して、本人なりにいろいろ作業を見通して、責任感を持って取り組んでくれています。今後も炭を中心にやりがいを持てる作業の提供を継続して行きたいです。
(岩切)

○N. MUさん

今年度も作業を中心に活動しています。竹切りなど単純作業は自分のペースで取り組めるので表情良く取り組んでくれています。

今年度は、家庭状況から調子が悪い日が多かったように感じます。調子の悪いときはバランスボールを飛んだり、トイレに入ったりして落ち着いてもらうよう対応しています。
(村松)

○K. Mさん

こだわりの強いときもありましたが、概ね安定しています。昨年度に引き続き、作業もなるべく落ち着いてできるように部屋を分けるなどしています。比較的、落ち着いて取り組んでいます。

今年度は家庭環境の変化からご本人は不安定にな1年でした。そのような中で作業以外の場面においては自分の落ち着ける場所を探して、和室やソファなど落ち着ける場所として定着してきたように感じます。年度後半に薬の分量の変更をしました。
(村松)

○H. Yさん

体調面での不調があり休むこともあったが、仕事には真摯に取り組んでくれています。また、周囲の仲間に対しても優しく接してくれるのでグループ内の雰囲気をよくしてくれています。

身体に関しては、脚が固くなってきています。また、年度後半にかかとの潰瘍の状態がひどくなってきたことで皮膚科に職員と通院する対応をしました。状態を維持していくためにご本人と一緒に考えていきたいと思っています。
(村松)

○Y. Yさん

パン作業が中心の仲間です。話したい事が伝わらず悩んでいたり、体の不調を訴える事もあり、ふさぎ込んでいる事もあった。気持ちで細かなフォローや見守りをしていく必要は今後もあります。

作業に対しては前向きに取り組んでいて、始業開始前から準備をしたり慣れない仕事も意欲的に取り組んでいます。パン作業のない日は、炭やアイシンの作業が多く、特に力を利用した作業には積極的に動いてくれます。
(小林)

◎Bグループ

○T. Aさん

Aグループでの朝の会に参加する、Bグループの仲間という位置づけの仲間でしたが、年の終わり頃から、Bグループでの朝の会参加となりました。高揚し落ち着かずでしたが、次第に着席して朝の会に参加。Aグループで培った“集中する力”は身に付いているので、見守りながら一步步、彼の歩みを大切にしたい。さらに、“喋る力”に着目して、その場を設けることを課題とし、司会にも挑戦しています。（古謝）

○E. Iさん

身体機能が徐々に低下してきていることから、年度の半ば頃から定期的にリハビリに通うようになりました。作業場面においては、これまで寝ていたり、気持ちの面で参加することが難しい日も多かったですが、職員や仲間とのやり取りを通して、参加する機会も増えています。決まった作業をするだけでなく、本人の参加できるような作業の組み方が必要となっています。（柳原）

○A. Uさん

外作業が好きでよく選んでいる。手先を使う中仕事や内職も器用にできる。自分がどれだけできたかを気にしており、褒められると嬉しそうにしている。この積み重ねのお陰で、中仕事を選ぶことも増えてきた。

会話の内容が豊かになってきており、積極的に自分から言いたいことを発信できるようになってきた。また、他の人の冗談を真似をして相手の反応を気にする場面が見られるようになってきた。少しずつ、コミュニケーションの幅が広がってきている。（大下）

○Y. Kさん

怒ったり、笑ったり、言葉数が増えたりとコミュニケーションや仕事を通して本人の世界が広がってきています。外の作業が多かったですが、中の作業も少しずつ増えてきています。自己主張が増えてきて、その言葉やしぐさを見逃さないように、信頼関係を築きつつ、支援をしていきたいです。（岩切）

○M. Kさん

朝の会で周りの仲間が発言出来ない時には「誰～さん今日の仕事何するー？」と言葉かけしてくれます。自分の仕事を決める時は楽しそうに決め、実際仕事中は「仕事楽しい、仕事の事考えとった」と答えてくれる程です。（坂本）

○S. Kさん

その日その日で本人の状態に違いはありますが、職員が言う言葉を良く聞き、仕事に集中してくれます。1日の仕事のほとんどが外仕事な為、疲れる顔もたまに見えますが、笑顔で過ごしている事が多い印象です。今後は本人の意思をより尊重し、何をしたいのかを感じ取って支援していこうと思います。（坂本）

○K. KAさん

毎朝、写真のカードを見て仕事を選択しています。中でも、ボカシ作業や外作業を好んでいます。文字盤を用いての挨拶も出来るようになり、排泄に関しては、介助無しでも排尿を成功させています。缶作業では軍手を外すことがほとんど無く、集中して取り組めるようになりました。（古謝）

○M. Kさん

外作業が中心の仲間ですが、以前と比べると中での作業も選び、前向きに取り組んでいます。仕事も速くて、そして正確性もあるという、どの仕事でもオールマイティーにこなせる事に感心させられます。

今年度はグループホームでの影響があり、自分で決めてやりたいという自主性や意思を出せる事が増えました。これからも、気持ちを大事にして作業に取り組んでいただきたい

です。

(小林)

○K. KOさん

今年度、作業時に頭が後ろにいつてしまうことが気になり、PTに相談し姿勢の改善を試みています。試行錯誤を繰り返している際中です。作業時の姿勢は良くなってきており、クッションをつけることにより頭が後ろに行くことは少なくなりました。(多良)

○A. Sさん

登所した祭、職員に笑顔で「おはよう」と言い握手を求めてくれます。日中軽い発作も時々ありますが、めげずに仕事を続けてくれるので職員としても励まされます。

作業が思うように進められない時は、「ねえねえ、これは、こうして」と作業の確認を職員にしてくれます。今後は外仕事でも活躍出来る場を増やして欲しいです。(坂本)

○A. Mさん

麦の里でも、意欲が増したことからか、笑うこと、泣くこと、怒ることが増えたようにみえます。目的を持って、行きたい場所へ一人で歩いていくこともあります。陽射しを好むが昼休みは室内で過ごしているので、職員の見守りの中、外で過ごすことも増えれば、自由度がひろがり、意欲を伸ばすことに繋がるのではないかと期待しています。(古謝)

○T. Mさん

朝の会では前日に観たテレビ番組についてよく話してくれますが、半年程前から朝のニュースでの天気予報についても教えてくれるようになりました。ご本人が話したい話題の引き出しが増えた印象です。作業中は眠気に負けず、周りの仲間の事を気遣ってくれます。(坂本)

○K. Yさん

家での散歩中、麦の里での作業中に1回ずつ転びました。転ぶと、うまく手をつけないので、何針か縫うような大きなけがになります。体の固さも目立ってきており、注意が必要です。

暴言、興奮は目立ちますが、新しい職員にはよく慣れました。仲間の輪の中で、落ち着いていられる時間を少しずつでも増やしていくことが目標です。(稲垣)

◎Rグループ

○J. Iさん

今年度も熱や発作で体調が安定しなかった。そのため、春に数回来た以降は、麦の里に出勤は出来なかった。(大下)

○Y. Kさん

今年度、1月にインフルエンザによる肺炎を発症し、入院しました。退院後、調子が戻るまでに2週間ほどかかりましたが麦の里では姿勢の工夫などをし、安定して過ごせていました。最近では笑顔も見られています。(多良)

○A. Kさん

春に吸引時に鼻腔より出血があったり、夏に頭に褥瘡ができてしまった。その際にお父さんにうまく相談や報告ができずに、お父さんと職員の信頼関係が壊れてしまった。その後も信頼関係を修復することができなかった。そのため、こちらがお断りするという形で8月に退所されている。(大下)

○T. Kさん

食事のムセは昨年度試みた姿勢の改善を継続しており、ムセ少なく食べれています。仙骨部の褥瘡は、処置の変更により改善が見られ、とてもよくなっています。今年度後半からトイレで排尿の成功が増え、1日に1回以上、排尿する日が多くなってきました。(多良)

○E. Kさん

歩く取り組みは今でも継続しており、足腰がしっかりしてきたため支えがなくても立つことができる場面が増えてきています。興味のあるものに関しては自分で手を伸ばしたり、近寄っていくようになってきました。 周りへの関心が強くなった？ (多良)

○T. Sさん

今年度は体調を崩して、長期で休むこともなく通所することができています。眠たいあまりに、動きがゆっくりになり、寝て過ごすこともありましたが、好きな仕事や物に対しては動きが早く積極的に向かっていく姿勢が見られます。様々な活動に取り組みながらも、年齢も 50 代に入っており、マイペースに落ち着いて過ごすことができるようにしていきたいです。 (柳原)

○M. Tさん

喘鳴があることから、昼食前の左右の側臥位、うつぶせ寝は継続しています。それでも食後には喘鳴が多く、うつ伏せをする機会が増えてはいますが、うつ伏せの角度を変えることで、自力で排痰ができ、吸引の回数はそれほど変わらずに過ごしています。年度の後半には、PTの助言のもと、力が入る事で食事を食べやすくするために、足の指にクッションを挟んでいます。体調的な面からか眠ってしまい、食事がとれず、補食をすることが増えています。 (柳原)

○N. Tさん

ホーム開所当初から「七色の麦」利用者の1人で仲間意識はできているが、運動量が少なく細身な身体のため、食が細くそれに伴い排便も不安定で薬での管理が必要になっていきます。水分も摂りたがらず夏場は夏バテ気味になってしまい体重減少がみられました。好きには移動活動はしてもらってはいるが、範囲は限られており野外活動に取り組み運動量を増やし食事や水分摂取量を安定したものにしていきたい。 (友行)

○T. Nさん

昨年度に引き続き、年度中頃にコロニーの検診で CRP が高いことがありました。ドクターと相談し、仰臥位の姿勢が多いと背中に痰が溜まりやすいとのことから寝た姿勢としては、仰臥位→両側臥位にしています。当初は、左側臥位は苦手でしたが、年度後半には落ち着いています。仲間を見て笑ったりと、他の仲間を意識する様子が一段と見られ、仲間意識が強くなってきています。また、絵本に手が伸びるなど身体を動かそうとしています。大切にしていきたい部分です。 (村松)

○G. Hさん

浅野内科で薬を処方してもらっていたが、コロニーでの処方に切り替わった。その際、薬の種類と錠剤へ変わった。飲み始めたばかりの頃は寝てしまうこともあったが、先生と相談をして飲み方を調整した。そのためか、起きている時間も増えたように感じる。

PT と相談して、ご飯前の口腔ケアをするようになり、ご飯の食べも良くなってきている。減少傾向にあった体重が戻ってきました。 (大下)

○R. Yさん

週 2 回の通所は安定しています。音楽や入浴など好きなことをするときには声を出して笑ったり、トランポリンなどの体感遊びには、やりたいと自分から向かっていく姿もありました。麦に慣れてきたようで、快だけでなく不快の感情も出てくるようになりました。散歩などのその他の活動にも取り組んでいきたいです。ただし、年度の後半には左肩の脱臼と骨折をしたことがきっかけで、様子を見るために欠席となり現在に至っています。 (柳原)

○R. Wさん

自傷行為がある為、普段は車椅子生活なので今年も床に降りる取り組みを続けています。

寝不足気味な事が多く、午後に眠くなってしまう機嫌が悪くなり拘束帯を抜いてしまい自傷行為が多くみられましたが、今年度は食後にお昼寝ができるようになり拘束帯を抜く事なく気持ちは一日を通して安定している事が多くなりました。又、耳からの情報収集が豊富なので好きな音楽等で気分転換してくれてました。体重増加は引き続き食事量の調整で安定しているが、最近では床に降りてもあまり立ちたがらず足の細さが気になるので、取り組みの課題となっています。
(友行)

<七色の麦>

◎レギュラーメンバー

○K. Kさん

今年度から2泊3日から3泊4日になりました。文字盤を使用するようになり、コミュニケーションの幅が広がった。年度後半から排尿の回数が減っており、入浴前や就寝前など声をかけてトイレに誘うようにしています。
(多良)

○M. Kさん

ホームでの活動では自分のしたい事が言えるようになり、散歩や買い物等の外に出かける活動を中心に参加してくれます。自我も芽生え、声掛けも必要な時もありますが、自分の行きたいところに移動もしています。自室で過ごす時間も増えつつ、体験の利用者を意識することもあり、「今日は〇〇さんだよ!」と誰が来るのかを楽しみにして、報告してくれます。
(岩切)

○T. Tさん

今年度も継続して血圧を測定し、麦の里と連携しながら体調の確認を行いました。薬の調整をしたことから、安定して過ごすことができます。自室で好きなことをして過ごすこともあります。食事の準備を積極的に手伝うことや、ほかの人を気にかけて、他の仲間や職員と居間で会話をしながら過ごすことも増えています。
(柳原)

○K. Nさん

マンツーマン対応が当たり前になっていますが、職員と出掛ける用事があれば、夕方からの活動を朝から楽しみにしています。仲間との関りもさらに増えて、ゲストを楽しみにしています。グループホーム青色の麦の開所に伴い、七色の麦から移動する仲間については、職員に寂しさを訴えています。今期の秋冬は“寒いから”と言いだして、七麦での入浴を断っています。

今年度から看護師が夜勤対応として加わり、看護師が居れば、自宅で導尿することなく、安心して七麦にて過ごしていますが、次の展望を考えています。
(古謝)

○A. Uさん

今年度も良い睡眠が取れるように試行錯誤しました。排便を起きている時間にできるよう漢方を飲む時間を変えると、就寝前に便が出てようになり、夜中に起きる回数が少し減りました。よく眠れている日は夜中に体の痒みを訴えることも少ないです。排尿のリズムをつけるために青竹踏みも始めていて、毎晩職員と掛け声をしながら100回踏んでいます。
(小木曾)

○S. Kさん

体験利用で来る仲間のお世話をしたい。そんなお姉さん気質の志保さん。今年も沢山声掛けをしていてくれました。職員のやっていることもよく見ていて、配膳の準備なども

自発的に行ってくれます。麦での担当職員がしばらくお休みになることがわかってからも、お手紙を書いたりしながらグッと堪えて頑張っています。(小木曾)

○T. Sさん

睡眠はまだ課題が残っているものの、寝不足で体調を崩すということはありませんでした。七色の麦での生活も随分と安定してきたように思われます。最近では、ご飯直前に自室から出てきていつもの食事をする場所へ来てくれたり、他の仲間の部屋へ行っておもちゃで遊んでいるところを時々見かけるようになってきました。(小木曾)

○N. Tさん

水分摂取が安定しない奈穂さん。今年度は、夕方にカフェオレを出して小まめに勧めてみました。前年度と思うと随分水分が取れるようになったという印象です。ですが、今年度も夏に脱水症状を起こすなど体調不良になることもありました。生活場面では、イスから立って職員の手をとって室内散歩したり、他の仲間の近くへ座りにいくなど自分から動いてくれる姿が増えたように思います。(小木曾)

◎体験利用メンバー

○T. Aさん

今年度から七色の麦体験利用を開始しています。お泊りは特に問題なく落ち着いて過ごせていました。職員と二人三脚で布団のシーツをつけたり、入浴時にシャワーで洗体するなどの生活上の課題に取り組んでいて、期待に応えようと頑張る姿が見られました。褒められると更にやる気がでるようで、頼まれていないことでも手伝いたいと言ってくれることもありました。(小木曾)

○Y. Kさん

今年度、1月にインフルエンザによる肺炎を発症し、入院しました。退院後、表情の変化が少なくなり、調子が戻るまでに2週間ほどかかりました。麦の里では眠っていることが多く、比較的落ち着いて過ごせていました。最近では笑顔も見られています。(多良)

○R. Kさん

回数を重ねてきたことで七色の麦での生活に慣れてきています。ご本人の中でも楽しい様子。体験利用開始したころは入浴が課題だったがそれも安定してきています。今後としては、食事の準備など役割を明確にすることで生活の中でできることを増やしてもらいたいと考えています。(村松)

○Y. Kさん

リラックスして過ごしている姿が印象的で、夕食後は皆と居間で過ごすことがほとんどです。頭に枕をして、仰向け寝で歌を口ずさみ、入浴では好んで浴槽に浸かって、しっかりと汗をかいています。日常的な余暇活動での絵を描くことや、食事の手伝い、入浴等を励みに、これからも積み重ねていきたいと考えています。(古謝)

○K. KOさん

今年度も月に1回、利用しています。継続していきっていること、周りの職員・仲間も知っている人ばかりでご本人も楽しい様子。一番の課題は睡眠です。ちょっとしたことで起きてしまいますが(体位交換など)、眠れてきています。回数を重ねてきたことでご本人の中にも安心感がでてきているように感じます。(村松)

○E. Kさん

月に1回の体験を重ねてきて、だいぶ慣れてきたようです。はじめは緊張した様子も見られましたが、他の仲間と一緒に床に横になって過ごしたり、職員にスキンシップを求めたりと、リラックスして過ごすことができています。寝つきに時間のかかることもありますが、安定して眠ることもできています。
(柳原)

○A. Sさん

お手伝いやお買い物など率先してやってくれます。また、夕方や食後の時間などは、TVだけでなくトランプなどのゲームをして他の仲間たちとワイワイと過ごすことができています。夜、なかなか眠れない様子もありましたが、回数を重ねて眠れるようになってきました。まだ、七麦明けの疲れは翌日に見られますが、七麦の体験利用は楽しみにしているようです。
(大下)

○M. Tさん

不定期の体験や緊急時に利用しています。他の仲間や慣れた職員がいる環境であるので、以前の課題であった睡眠も安定してとることができ、だいぶ慣れてきた様子です。他の仲間とも声かけに反応をしてコミュニケーションをとっています。夕食は体調等により、注入の時もありますが、経口で楽しんでいます。
(柳原)

○G. Hさん

今年度も体験利用を続けました。薬の変更がある中でも睡眠に関しては概ね安定していたように感じます。ただ、体験利用の前に発熱し、キャンセルすることもありました。七色の麦に慣れてもらうため回数を重ねていきたいと感じています。
(村松)

○A. Mさん

昨年度から引き続き継続して七麦の体験利用をしています。慣れた様子で落ち着いて過ごしています。以前はバナナを補食で持参していましたが、それも必要のないほど、食事でも完食しています。眠剤を使って睡眠もしっかりとれています。
(大下)

○T. Mさん

ホームでの生活にも慣れ、朝の排便もするようになり、少しずつではあるが睡眠の時間も6~7時間取れることも増えていました。就寝時には遮音壁の部屋で眠り、下着の変更も良かったのか、テープ等を気にして動くこともなくなりました。今後も宿泊を重ねていき、買い物等の外の活動にも参加していきたいです。
(岩切)

○N. MUさん

七色の麦へ泊りに来ることにも随分と慣れた様子で、リラックスした表情で登所してくるようになりました。今年は布団のシーツかけをマスター。各シーツを用意しておけば、あとは自分で用意できるようになりました。配膳の手伝いなどもお願いに気持ちよく応じてくれています。
(小木曾)

○Y. Yさん

宿泊体験することをとても楽しみにしています。朝の朝食を作りたい！起床後のお手伝いをしたい等、積極的に職員に話しどうすれば達成できるかを相談しつつ、過ごしています。今後の自分の生活の為に、いろんな手伝いや家事にもチャレンジしてくれています。挑戦をしたい事が増えていく中で、今後も相談しながら、皆とゆったりできるような活動にも取り組んでいきたいです。
(岩切)

2018年度(H30) 事業総括

共同生活援助事業 七色の麦

1.仲間ひとり 1 人の生活スタイルの確立

①個々の仲間のペースに合わせて 4 泊 5 日を実現していく

- ・年度の目標であった 4 泊 5 日の実現はできなかった。仲間のペースは随分と安定してきているが、職員体制が整わなかった。
- ・昨年度まで 2 泊 3 日だった仲間が 4 月から 3 泊 4 日になり、常時 8 名の仲間が利用する形となった。
- ・体験利用の仲間が来ることでレギュラーメンバーにとってはとても楽しみな様子。仲間関係において良い刺激となっている。

2.集団生活の中で「ルール」作り

①仲間同士の関係を深めていくことを大事にしていく

- ・個室があり、別々の場所で過ごそうと思えば過ごせる環境の中、今年度も居間にてみんなが集まって過ごすという場面が多く見られた。自室にいてもみんなの話していることが気になって戻ってきたり『とにかく聞いて！』という様子で皆にしゃべりかける仲間がいる。自室でマイペースに過ごす仲間もちろんいるが、動きの良い仲間が声をかけにいくことも見られた。個々のやりたいことができるたびに、仲間の中で話し合うことが定着してきた。

②集団の中にも仲間の「個」の部分に関しても大事にしていく

- ・今年度も仲間たちが、今日は絶対買い物へ行きたい。部屋でラジオを聞きたい。カセット一緒に聞いて欲しい。朝は早く起きて食事の支度をしたい等の「〇〇がしたい」という気持ちを大切にできた。今後も仲間たちの「〇〇したい」を一緒に考えていきたい。

3.体験利用の仲間たちの定期的な受入れ

①体験利用の仲間たちの生活リズムを安定させていく

- ・今年度は 1 泊 2 日で体験利用の受け入れを行ってきた。昨年度から始めた仲間も随分と落ち着いて過ごせるようになってきており、経験を積んでいくことの大切さを改めて感じた。今年度から新規で受け入れを始めた仲間も、回数を重ねるごとにお泊りに慣れ、徐々にやれることが増えるという姿が見られている。

4.職員体制の確立と業務の確立

①連絡体制の確立

- ・昨年度同様、掃除専門のパート職員に入ってもらうことで夜勤職員が 1 名早く麦の里へ戻ることができており、ミーティングを早めに始められている。ミーティングを早めに始められることで、申し送りも丁寧に行うことができている。しかし、一方で青色の麦がスタートすることを考えると今後、ミーティングの在り方を考える必要がある。
- ・七麦会議を数回行うことができたが、定例化するには至らず。兼務という形での運営をしているため、七麦会議を行うためには各職員の日程、業務調整を綿密に行う必要がある。会議ができるようにするのが望ましいが、それ以外での情報共有の方法についても検討していきたい。

②職員確保

- ・懸念だった夜勤可能な女性パート職員が増えている。女性正職員が麦の里と七色の麦を兼務する形は変わらないが、遅番や早番に入ってもらうことがメインになり、重なっていた負担が減ってきている。
- ・青色の麦の開所を考えていく中では、男性職員の数も足りているとは言い難い。今後は夜勤可能な男性職員の確保も急ぎ行っていく必要がある。
- ・夜勤専属の女性パート職員がお家の事情で 1 月から 2 か月間休みを取っており、その間を埋める形で新しく入った女性パート職員が夜勤に入り、3 泊 4 日を継続できている。4 泊 5 日の実現と青麦開所のためには、職員体制を整えていく必要がある。

5.品野町 1 丁目のグループホーム（青色の麦）の年内開所を目指す。

- ・年度内に開所することは難しかった。当初予算を大幅に超える見積りが設計士から出て足踏み。信頼できる設計士に話を持っていくが、それでもまだまだ大きく予算を超えていた。その後何度も検討を重ね、年度後半に着工となった。しかし、一方で予算を超えてしまった。その分を何とかしようと募金活動にも力を入れ、寄付金を募るチラシも配るなど、法人、保護者問わず総出で努力している。
- ・3 月中に愛知県障害福祉課の建物検査を受けて許可が下りれば 4 月から事業所活動可能になる。できる限り速やかに開所できるように調整したい。
- ・利用候補者との仮契約に向けた面談を実施。
- ・青色の麦の改装費用がかさみ、設定家賃が高くなってしまった。入居予定者に家賃の増加負担をお願いしたところ、快く納得してもらっている。

2019(H31)年度 事業計画

共同生活援助事業 七色の麦

1、 仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

① 新たに青色の麦を開所し、赤・緑・青色の麦の仲間の個々の生活リズムを安定させたい

- ・すでに赤・緑色の麦で生活している仲間が青色の麦に行き、今まで体験利用だった仲間が新たにレギュラーメンバーになる。メンバーが替わることは大きな変化であり、仲間たちにとっても大きいこと。新たにスタートする青色の麦も含めて生活リズムを安定させていきたい。

② 青色の麦も含めて3泊4日を継続する

- ・メンバーの入れ替わりもあり、3泊4日を維持していきたい。青色の麦も仲間によって個人差はあるが、全体としては3泊4日でスタートしたい

2、 集団生活の中での「ルール」作り

① 仲間同士の関係を深めていくことを大事にしていく

- ・仲間同士の間で「話し合う」ことが定着してきた（職員も間に入りながら）。これ

を継続していきたい

- ・青色の麦のメンバー編成に伴い、赤・緑色の麦のメンバーも替わる。新たなメンバーを巻き込んで今まで培ってきた関係づくりを深めていきたい

② 集団の中にも仲間の「個」の部分に関しても大事にしていく

- ・仲間たちの「ああしたい」「こうしたい」が昨年度はより出てきた。仲間たちとどうしたらできるようになるか一緒になって考えていきたい。
- ・仲間同士の関係の中で「お互いの違い」が認めあえるようにしていきたい

3、 体験利用の定期的な受け入れ

① 体験利用の仲間たち生活リズムを安定させていく

- ・ 青色の麦の開所に伴い、一時的に体験利用をストップすることもあるが、青色の麦、新たなメンバーを入れた赤・緑色の麦が安定してきたときには再開したいと考えている
- ・ 再開後は、再び定期的に受け入れていきたい。

4、 職員体制の確立と業務の確立

① 連絡体制の確立

- ・ 青色の麦の開所に伴って、申し送りのスタイルを変えていく。今までのように申し送りをしていくのは困難になってくるため毎日の記録にしっかりと記録し申し送っていくなど検討していく
- ・ 昨年度の会議は3回のみだった。ケース検討など必要なものはあるので会議は持ちたいので会議を定期的に行いたい。

② 職員確保

- ・ 青色の麦の開所に向けて職員体制を整えたい。昨年度後半に男性1名、女性2名のパート職員が入職した。しかし、今の職員の人数、体制では足りないのが現状。男女問わず、職員を増やす必要がある。
- ・ 年度中盤より看護師で夜勤をしてもらうことができた。体験利用で医療的ケアの必要な仲間もいるので心強い。医ケアの必要な仲間の受け入れを考え、2号・3号研修の取得者も増やしたい。

麦の里 2018 (H30) 年度事業総括 (案)

2019 (H31) 年度事業計画 (案)

I. 職員体制について

〔1〕 昼間施設とホームとの業務をさらに拡充し、安定した施設運営を目指す

《2018年度総括》

- ① 4月に正職員が1名入職したが、8月に長年勤めてきた正職員が1名退職した。
- ② ホームでの夜勤のできる女性職員の増員が課題ではあったが、看護師が1名、夜勤に入れるようになった。そのため、医ケアが必要な仲間たちも安心してホームを利用する事ができた。一方で、看護師の夜勤に伴い日中に看護師がいない日ができてしまった。女性正職員が夜勤に入らなくとも、ホームを稼働することができた。
- ③ また、年度後半に夜勤中心の女性パートが家庭の事情で1ヶ月半ほど休みとなったが、代わりに夜勤のできる女性パートが1名増えた。
遅番職員に関しては、遅番中心に勤務が可能な女性パートが安定的に入るようになり、女性正職員の負担は軽減した。
- ④ 近隣の大学にチラシ配布をしたり募集をかけたが、集まらなかった。また、機関誌や有料サイトを通じて募集もしてきた。男性パートが1名、女性パートが3名入職した。
- ⑤ 遅番担当の職員は、昨年度は人手不足のため月曜日は午後出勤できるようにしてきたが、今年度は火・水曜日でも午後出勤できるように体制を組んでいる。
- ⑥ 男性職員は昨年度と同様の人員で夜勤・遅番を回した。新たに七色の麦に入れる男性職員を増やせず、七色の麦の4泊5日は実現できなかった。
しかし、一方で青色の麦の開所に向けて準備を進めており、特に夏以降は急ピッチで準備が進んでいる。
- ⑦ 喀痰吸引第2号・3号研修の新たな資格取得者はいなかったが、ホームでは、夜勤に看護師が入ることができて医ケア対応の仲間の体験利用での受入れができています。
- ⑧ 1年間病気で休職していた職員の職場復帰プログラムを12月から開始した。

《2019年度 方針案》

○日中活動の施設とホームの安定、青色の麦の開所に向けて

業務体制をさらに拡充させたい

【短期目標】

- ① 第2施設、青色の麦の開所のためにも夜勤や遅番ができる職員は男女問わず、引き続き

増やしていきたい。有料サイト、機関誌にて呼びかけを続けていく。

- ② 学生アルバイト・ボランティアを募集していくために、近くの大学に呼びかけをしていく。
- ③ 日勤をしているスタッフに夜勤や遅番に入ってもらい、兼務ができる職員の増員を目指す。
- ④ もう1名看護師を確保する、また、喀痰吸引第三号研修取得者が実際に業務に入れるように、体制を整備する。

【中長期目標】

- ① 新たに喀痰吸引第二号、第三号の資格取得者を増やしていく。
- ② ホーム専属の職員を導入していく。

【2】 正職員を早急に2名、さらに2名、合計4名を年度内に増やしたい

《2018年度総括》

- ① 4月に正職員として男性1名が入職。しかし、8月に女性正職員1名が退職し、2月に女性正職員が1名、産休に入ったため正職員の増員はできなかった。
- ② 看板づくりやホームページの改装はできなかったが、有料サイトに登録し、職員募集を進めている。
- ③ 就職総合フェアに参加した。

《2019年度方針案》

○青色の麦の早期開所に向けて職員を増やしたい

【短期目標】

- ① 求人募集のため、ホームページを改装する。
- ② 引き続き機関誌や有料サイトにて求人を募集していく。
- ③ 就職フェアにも積極的に参加していく。

【中長期目標】

- ① 第2施設、七色の麦の4泊5日を実現していくために、5名以上の職員を増やしたい。

【3】未来を準備するための職員研修を積極的に行っていく

《2018年度総括》

- ① 強度行動障害の研修には、3名受講した。
- ② 今後に向けて、あいされん重度重複部会の研修に参加し、施設の見学をした。
- ③ 研修の案内は多くの職員が参加できるように、事前に案内を提示してきた。参加の人数は少なかったが、パート職員も参加できた。
- ④ 活動日の研修でも、現場職員の協力のもと、希望する研修には参加する事ができた。
- ⑤ 「人間発達基礎講座」は行事と重なってしまい参加できなかった。

《2019年度方針案》

○職員のスキルアップのために職員研修を積極的に行いたい

【短期目標】

- ① 研修の情報を事前に提示していく。たくさんの職員が参加できるようにする。
- ② 研修会や他施設の見学会、他施設との交流会を通して、それぞれの職員が情報を入手していく。
- ③ 強度行動障害の研修は、積極的に参加していく。
- ④ サービス管理責任者の資格取得者を増やす。

【中長期目標】

- ① 第二号、第三号研修、介護福祉士、社会福祉士などの資格取得を応援していく。

【4】新しい施設のために、業務体系を変えていく

《2018年度総括》

- ① 年度の後半より、会議のある日はA、B、療護に分かれてミーティングを行うことで時間短縮を図った。
- ② 月曜～水曜は遅番や夜勤で職員が揃わないため、木曜日の会議で仲間の情報交換をして職員間で共有した。
- ③ 七色の麦の会議は夏に行ったが定期的な開催には至らなかった。
- ④ 職員会議の記録はとっているが回覧はできていない。

《2019年度方針案》

○今後に向けて業務体系を変えていく

【短期目標】

- ① 職員の負担軽減のためにミーティングの在り方を再度検討していく。
- ② 七色の麦の会議の定期的な開催。
- ③ 会議以外の日にも、A組、B組、療護に分かれてのミーティングを実施する。

【中長期目標】

- ① 引き続き第2麦の里開所に向けて、準備を進めていく。

Ⅱ. 日中活動の中身を見直そう

〔1〕 作業の活動を見直してみよう

☆**Aグループは仕事を中心にしていくが、レクにも取りくんできく**

☆**Bグループは仕事に取り組む中で仲間の自我の発達に取り組む**

《2018年度総括》

- ① 今年も内職が多く、Aグループは内職に忙しい1年だった。レクリエーションは各自希望を仲間の会で言う事ができ、個別で計画を練るところから取り組む事ができて、それぞれ好きな取り組みを行う事ができた。
- ② 2月にパンを中心に働いていた正職員が産休・育休で休みに入った。次の職員に引き継ぎ、仲間たちもまた気持ちも新たに取り組んでいる。
- ③ Bグループの車椅子の仲間たちも春や秋といった気候が良いときには積極的に外に出るようにした。Bグループは作業を今年度も3つに分けて取り組んだ。1つのグループの人数が少ないので、仲間たちものびのびと作業する事ができ、職員も1人1人を細やかに見ることができた。
- ④ Bグループの自我や仲間意識は、昨年度同様に育ちつつある。職員がいなくとも、仲間同士で会話をしたり、お互いを意識し合っている姿が見られる。
- ⑤ Bグループのレクリエーションは、自分で意見が表出することが難しい仲間たちの想いを汲みとることが大変だったが、今年度も個別の希望に合わせて行うことができた。
- ⑥ 仲間の会は、定期開催できなかったがAグループは、開催頻度があがった。しかしながら、工賃、将来の話についてはできていない。Bグループの仲間の会はレクリエーションの話し合いが主で定期開催はできなかった。
- ⑦ 避難訓練は、今年度は1回のみだった。前回の避難訓練から1年ほど経ってしまっていたので、仲間たちの中には戸惑ってすぐに逃げられない仲間もいた。

《2019年度方針案》

○作業の活動を見直してみよう

☆**Aグループは、作業中心としつつ仲間たちによる**

自主的な活動ができるようにしていく

☆Bグループは、作業を通して仲間たちの自我の発達に取り組む

【短期目標】

- ① 仲間の会の定期的な開催をする。
- ② 避難訓練を年に2回行えるように計画していく。また、抜き打ちでも訓練をしていく。
- ③ 今年もレクリエーションを継続していく。
- ④ きょうされん全国大会が愛知県で行われる。どのような形で参加していくのか仲間たちと相談していく。

【中長期目標】

- ① 仲間の会、または個別にでも話し合う機会を持って「将来のこと・働き方」について仲間たちと話し合っていく

【2】重度重複の仲間たちの活動を考えよう

☆日々の業務を安定させる中で計画的に取り組みを作っていく

《2018年度総括》

- ① 入浴のない水曜日の取り組みについては、「週の始めに計画する」には至っていないが、紙芝居を借りに行き、みんなで観る機会を作った。全員で同じ物を楽しむという、絵本の読み聞かせとは違った雰囲気を楽しんでいる。
- ② 木曜市の参加・レクリエーションの取り組みはできなかったが、「紙芝居を借りに行く」ことや「はだし工房さんの観劇鑑賞会」に参加することができ、外に出る機会が増えた。
- ③ 創作活動によく取り組んだ1年だった。絵画展に出展するだけでなく、年賀状コンテストで手指や足を使って絵を描くことで仲間たちも段々と手指や足に絵の具を塗ることに慣れてきた。仲間たち自身も意欲的に取り組んでいる。
- ④ 重度重複部会で「びわこ学園」と「あみの福祉会」の見学に出掛けた。他の施設の障害者がどのように暮らしているか、他の施設はどのような取り組みをしているのか、学ぶことができた。
- ⑤ 冬から、PTが来た日には午前中に車いすダンスを行った。音楽に合わせて、介助者が車いすを動かし、手を取り合いダンスをする。仲間たちの表情も良く、スタッフも楽しんでいる。

- ⑥ 看護師が夜勤に入れるようになった。そのため、医ケアが必要な仲間たちも安心してホームを利用できるようになった。一方で日中、看護師がいない日ができてしまった。
- ⑦ 車椅子ダンスや紙芝居、創作活動といった新しい取り組みが増え、昨年度に比べて様々な活動に取り組んだ1年だった。

《2019年度方針案》

○**重度重複の仲間たちの活動を考えよう**

日々の業務を安定させる中で計画的に取り組むを作っていく

【短期目標】

- ① その日の仲間の体調や気候に応じて活動内容は相談していくが、入浴のない水曜日の取り組みを計画的に行う。
- ② レクリエーションの計画をする。
- ③ 療護のための職員研修、見学の計画の継続。
- ④ 看護師の夜勤に伴い、看護師をもう1名確保する、また、昨年度の第三号研修取得者が実際にできるように整備する。

【中長期目標】

- ① 医ケアの仲間たちの急な宿泊にも対応できるように、第二号、第三号研修の資格取得者を増やしていく。

[3]自分の生活について考えよう

☆作業以外の生活面への配慮の必要な仲間も

多く出てきており、それに対して取り組んでいく。

《2018年度総括》

- ① 仲間の会は定期的な開催はできなかった。仕事の話とレクの話が主だったので、将来の

話はできなかった。しかし、個別で年金の話をして、市役所に付き添いをして年金の手続きをした仲間もいる。

- ② 今年度も引き続き、P Tの先生とも相談しながらリハビリをしている。リハビリの他にも、新たに本人に合ったコルセットを提案したり、障害の重度化に伴って車いすを作り直したりしている。
- ③ 仲間の通院の付き添いに対応した。
- ④ 年度後半には、高齢化に伴って足腰が弱くなってきた仲間についてP Tに相談している。
- ⑤ 5月にお母様を亡くした仲間の今後の生活について、後見人さんを交えて相談をしていた。お姉さんと2人で暮らしていくと決めた仲間を応援していく体制をとるようにした。

《2019年度方針案》

◎自分の生活について考えよう

☆作業以外の場面での配慮が必要な仲間が多くでてきている。

仲間たちと話し合いながら、作業以外のことにも取り組んでいく

【短期目標】

- ① 仲間の会を定期的を開催して、話し合う機会を作る。内容によっては、個別でも話し合っていく。
- ② 仲間の身体の変化に注意しながら、P Tと相談をして作業面だけではなく、仲間たちの生活も支えていく。
- ③ 仲間たちの身体の変化だけでなく、生活面も職員間で共有しながら話し合う機会を設けていく。

【中長期目標】

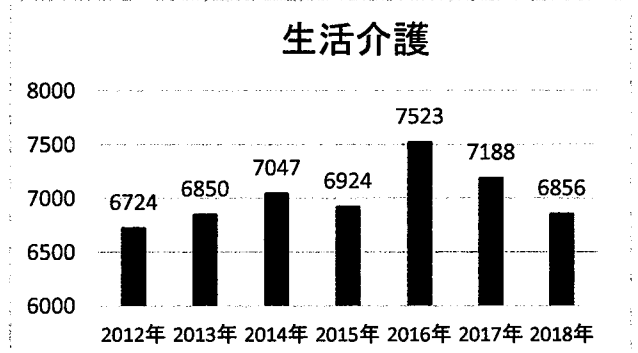
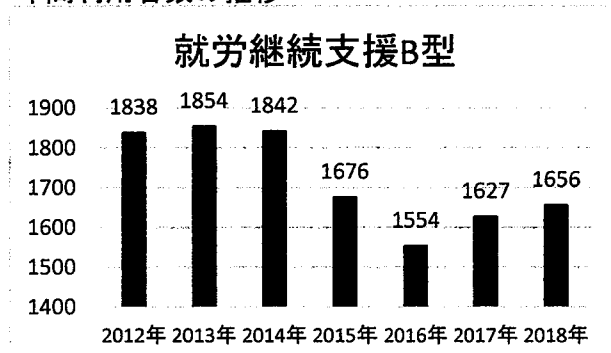
- ①職員間で問題意識の共有をしていくと同時に仲間たちとも「将来のことや親亡き後のこと・働き方など」について話し合っていく

2018年度事業報告(利用実績等)

1、麦の里 利用者の状況

2019.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
中核市	女			1					1
その他	男		8	7	5	1	1		22
県内市町村	女		5	4	2	2	1		14
愛知県外	男								
	女								
合計	男		8	7	5	1	1		22
	女		5	5	2	2	1		15

年間利用者数の推移



2、七色の麦 利用者の状況

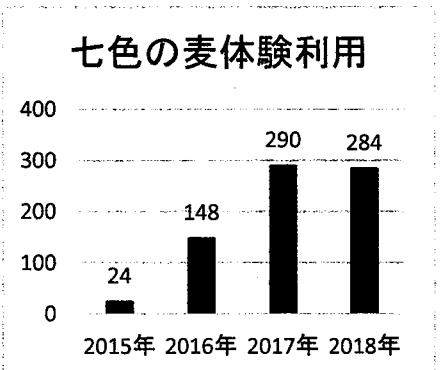
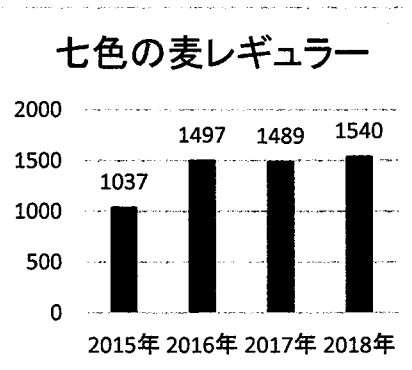
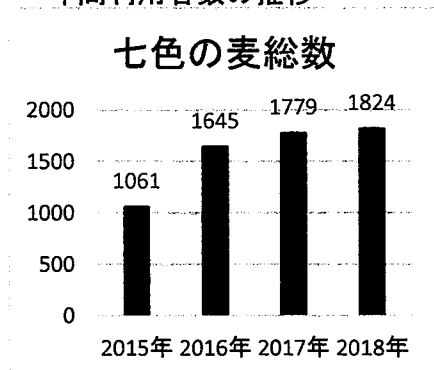
入所メンバー

2019.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
中核市	女			1					1
その他	男		1	1	1				3
県内市町村	女		1		1	1	1		4
愛知県外	男								
	女								
合計	男		1	1	1				3
	女		1	1	1	1	1		5

体験入所メンバー

2019.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
中核市	女								
その他	男		5	2	2				9
県内市町村	女		2	2					4
愛知県外	男								
	女								
合計	男		5	2	2				9
	女		2	2					4

年間利用者数の推移



3、就労継続支援事業B型表の里

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	22	23	24	23	22	21	25	22	22	22	21	22	269

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	139	144	145	141	136	122	153	148	129	132	131	136	1656
利用率(%)	63.2	62.6	60.4	61.3	61.8	58.1	61.2	67.3	58.6	60.0	62.4	61.8	61.6

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	1	2	5	1	1	3	1		4	3	1		22

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院者数												

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(障害基礎年金1級者数)
重度支援者数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延長支援者数													

2019.3.31現在		瀬戸市	春日井市	合計
利用者の住所地	男	4	1	5
	女	2		2
新規利用者数				
退所利用者数				

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
障害支援区分	4/1現在			2	1	4		
	3/31現在			1	2	4		

2019.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男	2	2			1		5
	女			1		1		2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	7	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	6	6.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	240	246	245	238	235	205	256	242	218	224	225	229	2803

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	119	122	120	117	114	106	126	124	109	107	112	115	1391

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
サービス管理責任者	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
職業指導員	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7	0.8
生活支援員	0.3	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3
目標工賃達成職員	1.1	1.1	1.1	1	1	1	1	1	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1
直接処遇職員	2.2	2.3	2.2	2.1	2	2	2.1	1.9	2.2	2.1	2	2.1	2.1
事務員	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。
直接処遇職員数は、国の定めにより算出した数であるため、生活支援員等の合計数と異なります

4、生活介護表の里

① 利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開所日数
開所日数	22	23	24	23	22	21	25	22	22	22	21	22		269

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	31	31	30	30	30	29	29	28	28	28	28	28	29.2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	574	609	623	614	593	507	637	582	533	502	530	552	6856
利用率(%)	87.0	88.3	86.5	89.0	89.8	80.5	84.9	88.2	80.8	76.1	84.1	83.6	85.0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	30	15	17	16	13	24	10	14	10	29	13	18	209

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
入院者数	2	1	1				2		1	1			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延長支援者数	2	3	2	1	3	2		1	1	1	1	1	18

2019.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	他	合計
利用者の住所地	男	12	1	3	1		17
	女	6	3	1	1	1	14
内新規利用者数							
内退所利用者数	1						1

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
障害支援区分	4/1現在				1	4	5	21
	3/31現在					4	4	22

2019.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男	6	5	5	1			17
	女	5	5	1	2			13

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	29	29	28	29	28	29	29	28	28	27	28	27	28.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	878	935	947	933	919	828	1014	925	847	797	838	880	10741

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	516	534	551	533	528	470	577	538	479	468	494	498	6186

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
入浴利用者数	15	15	14	14	14	13	13	12	12	12	12	12	13.2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入浴利用延数	91	97	101	104	90	85	96	88	80	77	82	87	1078

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
医療的ケア	吸引(口腔内)	4	酸素吸入	1	服薬管理	13
	吸引(鼻腔)	4	モニター管理	1	創傷処置	
	吸引(気管切開)		じょくそうの処置	1		
	経鼻経管栄養		疼痛管理			
	胃ろう栄養管理	4	インスリン管理			
	点滴		導尿	1		
	ネブライザー	2	浣腸			
	気管切開のケア		摘便			

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
理学療法 相談及び対処	ストレッチ指導	6	筋緊張の緩和等	7		
	補装具等の調整	8	自助具の開発等	5		

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	32	33	33	32	31	31	31	31	35	35	35	35	32.8

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
サービス管理責任者	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
生活支援員	14.9	15.9	16.1	15.4	15.4	15.3	16.1	15.9	17.8	18.9	16.3	17.0	16.3
医師	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
看護師	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5
理学療法士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
直接処遇職員	16.7	17.7	18.0	17.3	17.2	17.2	17.6	17.3	19.3	20.3	17.8	18.4	17.9
事務員	0.2	0.2	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。
直接処遇職員数は、国の定めにより算出した数であるため、生活支援員等の合計数と異なります

5、共同生活援助七色の麦

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	17	25	18	20	18	16	21	17	16	16	16	15	215

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8.0
体験利用者数	10	8	11	11	11	12	13	11	13	10	12	12	11.2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	119	145	128	143	120	124	150	127	124	116	125	119	1540
体験延利用者数	24	20	24	22	24	24	29	23	26	20	24	24	284
合計延べ利用者数	143	165	152	165	144	148	179	150	150	136	149	143	1824
利用率(%)	84.1	66.0	84.4	82.5	80.0	92.5	85.2	88.2	93.8	85.0	93.1	95.3	84.8

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重度支援対象者	5	4	7	6	6	7	7	6	7	5	6	7

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療連携者数													

2019.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	東郷町	合計
利用者の住所地	男	2		1			3
	女	3		1		1	5
内新規利用者数							
内退所利用者数							

2019.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	東郷町	合計
体験利用者の住所地	男	7	1		1		9
	女	2			1	1	4

※今年度体験利用者

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
障害支援区分	4/1現在			1		1	2	4
	3/31現在			1		1	2	4
体験・支援区分	人数					4		9

※2019.3.31現在

2019.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男		1	1	1			3
	女		1	1	1	1		5

2019.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
体験利用者 男		5	2	2				9
年齢構成 女		2	2					4

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	20	20	20	20	20	20	21	21	21	21	21	21	20.5

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
サービス管理責任者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
生活支援員	3.1	2.9	3.3	3.1	3.0	3.1	3.2	3.2	3.4	3.1	3.0	3.0	3.1
世話人	2.3	2.3	2.5	2.6	2.8	2.7	2.5	2.6	2.6	2.4	2.8	2.9	2.6
夜間支援員	1.5	1.4	1.5	1.4	1.5	1.5	1.5	1.6	1.5	1.3	1.5	1.5	1.5

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。

6、その他の職員配置

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
運転手	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ハウスキーパー	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

7、職員総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員実数	43	44	46	46	45	45	47	47	48	48	47	48	46.2
内嘱託医	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
内派遣職員数(シルバー含む)	1	1	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2.0
休職職員数	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1.7
月全休職員	1	1									1	1	0.3
内月途中採用職員数	1	1					1		1			1	0.4
内月退職職員数					1								0.1
給与支払い職員数	41	42	43	43	43	42	43	43	45	45	44	46	43.3

2019.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
正職年齢構成 男		2	4	1	2			9
女		1	2	1	1			5

2019.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
パート年齢構成 男				1	4	3	2	10
女			1	8	9	5		23

※休職中職員含む

2019.3.31現在	1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上	合計
正職在職年数 男	1	2	4			2	9
女			1	1	1	2	5

* 麦の里パートから正職員採用した場合、期間は継続で計算

2019.3.31現在	1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上	合計
パート在職年数 男	3			1	1	5	10
女	4	3	3	7	1	5	23

※休職中職員含む

8、職員 各種資格取得の状況

	正職員	パート		正職員	パート	派遣
社会福祉士	1	1	サービス管理責任者	4		
介護福祉士	5	3	相談支援専門員	4		
精神保健福祉士			理学療法士		1	
ヘルパー1級	1		看護師・准看護師		2	
ヘルパー2級	1	10	視覚障害者移動介護従事者養成研修	1	2	
介護職員初任者研修	1	2	同行援護従事者研修			
強度行動障害・基礎	6	2	強度行動障害・実践	6	2	

